

2022年12月期（第109期） 第2四半期 決算概要資料

日華化学株式会社

（証券コード：4463）

2022年7月28日

1. 2022年度 第2四半期業績

2022年度 上期 経営環境	4
2022年度 第2四半期累計 決算サマリー	5
セグメント別業績	6
売上高 増減要因(対前年)	7
営業利益 増減要因(対前年/概算)	8
経常利益 増減要因(対前年)	9
特別損益	10
化学品セグメント 業績詳細	11
化粧品セグメント 業績詳細	12
連結キャッシュフロー	13
主な経営指標	14
2022年度 第2四半期累計 決算総括	15

2. 上期トピックス

2022年度 上期 トピックス	17~21
-----------------	-------

3. 2022年度 通期業績・配当予想他

2022年度 下期 経営環境想定	23
通期業績・配当予想	24
セグメント別 通期業績予想	25
下期営業利益 増減要因(対前年/概算)	26











4. 参考情報

財務データ等推移	28
会社概要	29

1. 2022年度 第2四半期 業績

原料高騰に加え想定以上の円安進行が続き、資材等のコスト上昇が加速した中、低調だった日米の自動車販売を除き、総じて堅調に推移した。特に半導体ウェハ分野は引き続き好調だった。

■ 事業分野外部環境等（新型コロナウイルス感染症の影響含む）

繊維加工	日本		消費動向の一部回復によりスポーツアウター系は堅調もファッション系は依然厳しい状況 衛生材料・産業資材分野は堅調
	海外		ウクライナ問題、中国ロックダウンの影響はあったが、欧米アパレル向けオーダーが堅調に推移 中でも生産拠点のアセアン、西南アジアは好調
自動車	日本・海外		販売 1-6月前年同期比/日本(軽含)△15.2% (△34.3万台)、中国+3.5% (+35.4万台)、米国(小型トラック含)△18.3% (△151.5万台)と日米は引き続き低調、中国はロックダウンから復調し微増
製紙	日本		新聞用紙・印刷情報用紙は需要減継続、家庭紙・衛生紙は横ばい、板紙はEC需要もあり堅調継続 資材高騰を受けメーカー各社が継続的な値上げ実施中
クリーニング	日本		ホームクリーニング業界は前年同期比で大きな変化なし 宿泊・飲食業界は回復基調が続いている
半導体ウェハ	日本		ノートPCやゲーム機、家電製品などの特需は落ち着きをみせるものの5Gやデータセンター伸長に伴い、引き続き半導体需要は伸長
生活・環境 衛生関連	日本		抗菌・抗ウイルス剤、手指消毒剤/前年の需要に比して落ち着きを見せた 医療用洗浄剤/病院外来・入院患者数は前年同期比で大きな変化なし
ヘアケア化粧品	日本		来店客数は1Qは減少、2Qは回復したがBC水準には戻っていない。一方客単価は上昇しており国内美容 サロン市場は微増。ODM需要は想定以下の状況。
	海外		韓国/年初来コロナ感染拡大が続くもwithコロナ政策への転換により来店客数も回復の兆しが見られ たが、急激な物価高による購買意欲低下により美容室訪問頻度減少傾向が続いた
数値指標 (前年比)	為替		期中平均 円/米ドル・123.17円で14.3%円安、中国元14.2%円安、ウォン3.6%円安
	国産ナフサ	-	1Q/64,600円(前年同期比+66%)、2Q予想/86,200円(前年同期比+81%)

原材料高騰の影響を受けたものの、販売拡大や価格改定などによりカバーしたことに加え、円安の影響もあり増収増益（経常利益）となった。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年の固定資産売却益の影響で減益となった

単位：百万円

	2021年度 第2四半期 (旧基準)	2021年度 第2四半期 (新基準)	2022年度 第2四半期 (新基準)	前期比	
				増減額	増減率
売上高	24,100	23,237	24,917	+1,680	+7.2%
営業利益 (営業利益率)	1,413 5.9%	1,376 5.9%	1,386 5.6%	+10	+0.8%
経常利益	1,596	1,596	1,823	+227	+14.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,583	1,583	1,058	△524	△33.1%
中間配当（円）	8	8	11	+3	—

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度第2四半期（新基準）における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

化学品事業は、原材料高騰の影響を受けたものの、販売拡大や価格改定などでカバーしたことに加え、円安の影響もあり増収増益となった。化粧品事業は、主に前年同期に大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があった関係で減収減益となった。

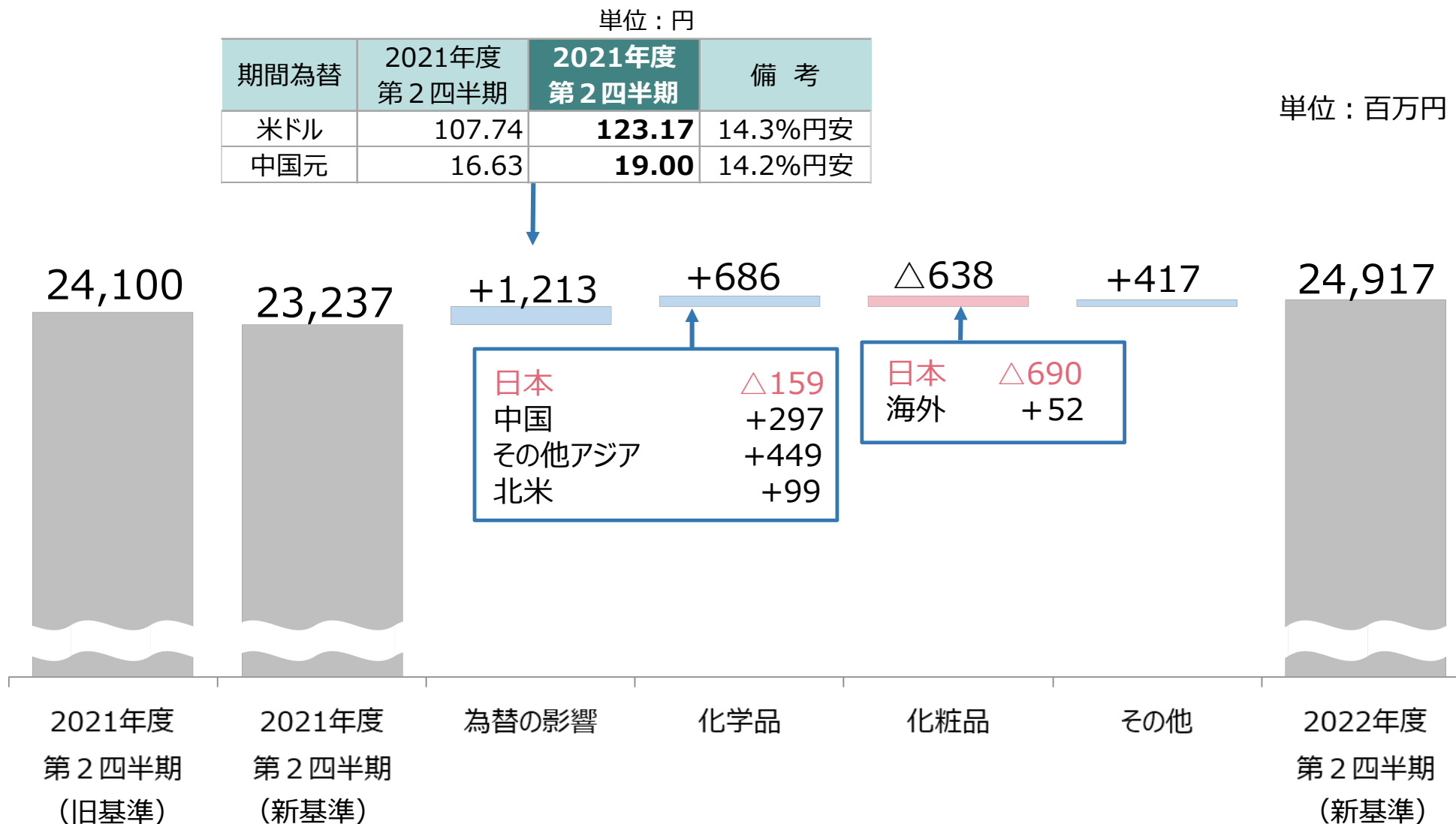
単位：百万円

セグメント	2021年度 第2四半期 (旧基準)		2021年度 第2四半期 (新基準)		2022年度 第2四半期 (新基準)		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
化学品	16,665	908	16,171	900	18,041	973	+1,870	+11.6%	+73	+8.2%
化粧品	7,283	1,443	6,914	1,414	6,307	1,223	△607	△8.8%	△191	△13.5%
その他	150	40	150	40	568	49	+417	+276.8%	+8	+21.8%
消去等	—	-978	—	-978	—	-859	—	—	+119	—
合計	24,100	1,413	23,237	1,376	24,917	1,386	+1,680	+7.2%	+10	+0.8%

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度第2四半期（新基準）における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

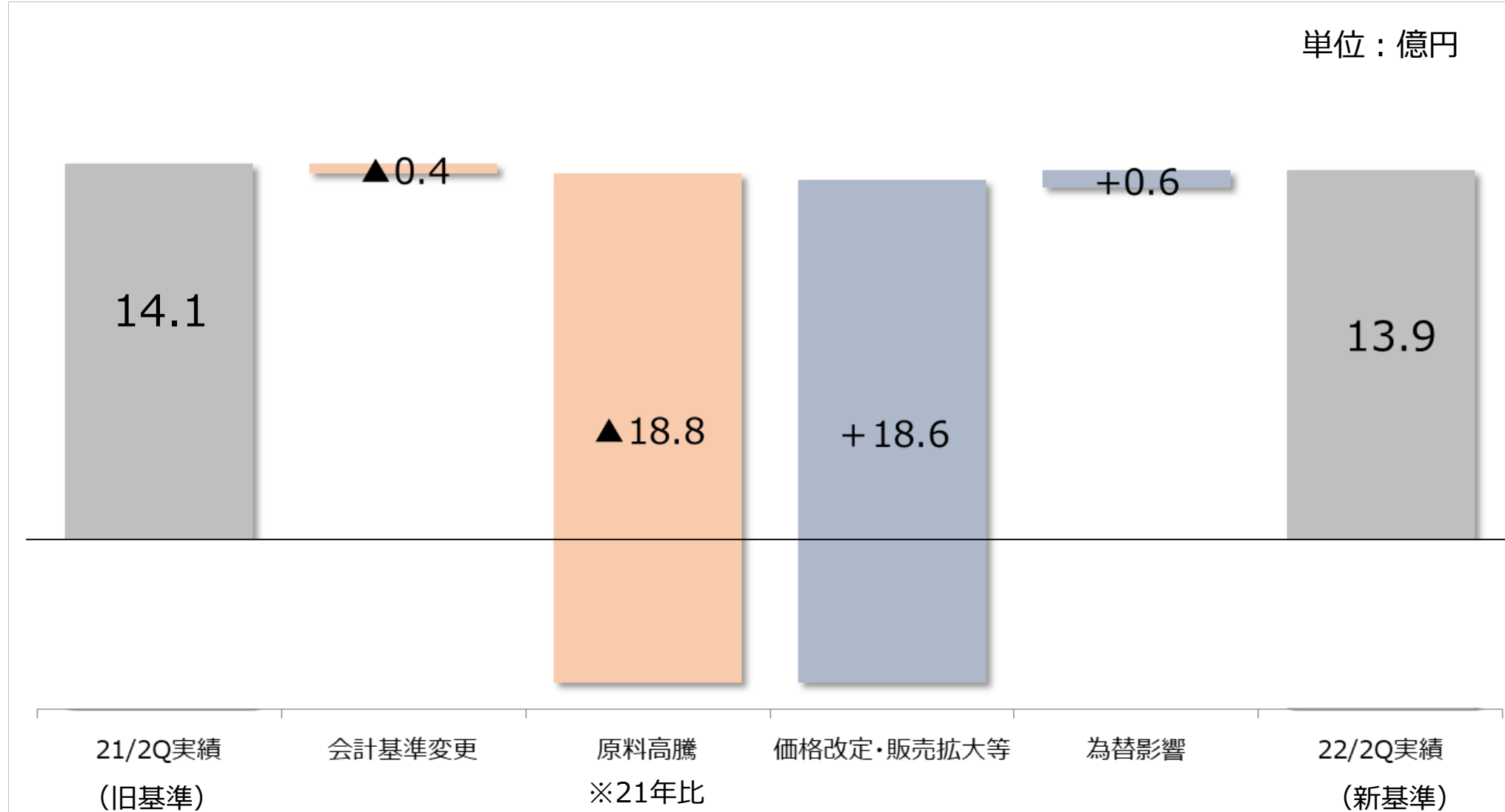
売上高 増減要因 (対前年)

円安による影響で+12.1億円、化学品事業で+6.8億円の増収、化粧品事業で△6.3億円の減収となった
化粧品は国内で大幅減収となり、化学品は海外で増収となった



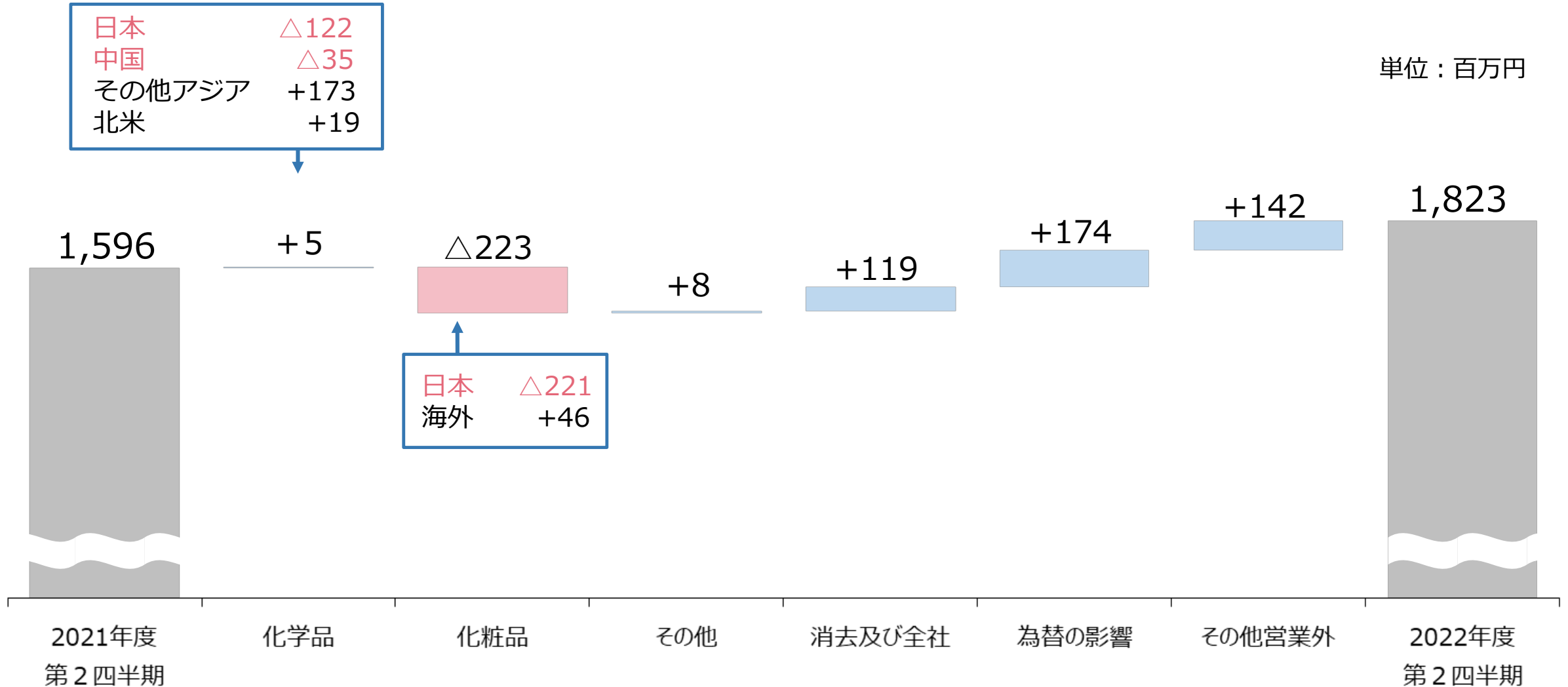
営業利益 増減要因 (対前年/概算)

原料・資材の高騰の影響は大きかったが、原価アップへの対応、販売拡大等により営業利益は横ばいとなった



経常利益 増減要因 (対前年)

化学品事業で横ばい、為替の影響で+1.7億円の増益の一方、化粧品事業で△2.2億円の減益となった
 化学品はその他アジア地域で増益が大きく、化粧品は国内で減益が大きかった



前年は固定資産売却益が大きかったため、特別利益が大幅減となった

単位：百万円

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	増減額	増減率
特別利益	595	143	△451	△75.8%
特別損失	69	28	△40	△58.4%

2021年2Q

特別利益／香港日華化学 固定資産売却益等

特別損失／日華化学 投資有価証券評価損

2022年2Q

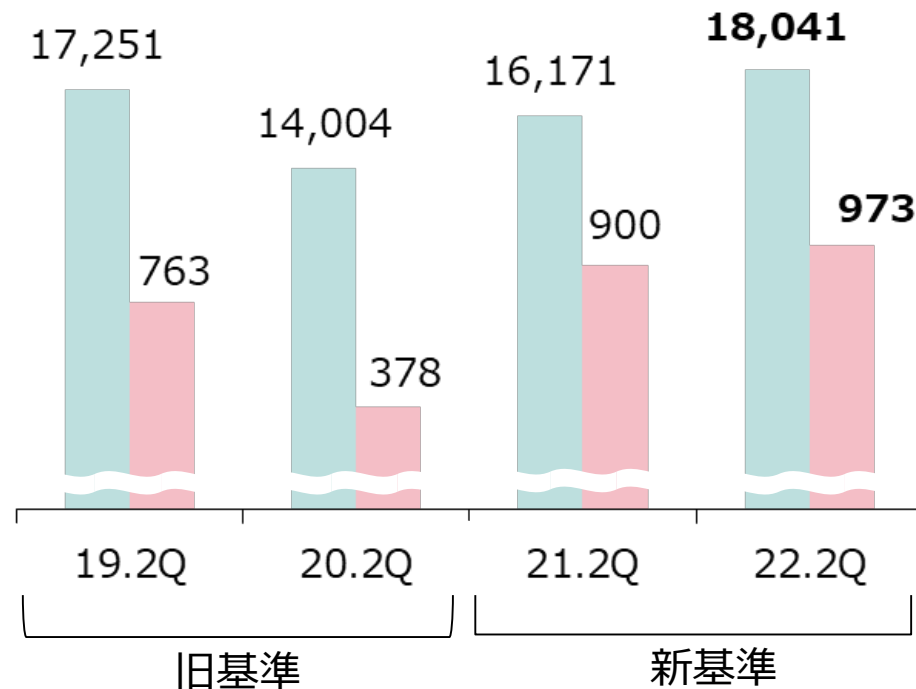
特別利益／補助金等

特別損失／日華化学 投資有価証券評価損

コロナ禍の影響が継続した中、一部市場を除き需要回復が見られ、販売拡大や価格改定、円安の影響もあり増収となった。一方、ウクライナ情勢などによる原材料価格高騰があったものの、価格改定に加えて、販売拡大、経費抑制、円安の影響により増益となった

業績推移

単位：百万円



地域別売上高	新基準	新基準	増減額	増減率
	21.2Q	22.2Q		
日 本	7,478	7,318	△159	△2.1%
中国	3,056	3,877	+820	+26.9%
その他アジア	5,060	6,061	+1,000	+19.8%
北 米	576	784	+208	+36.1%
合 計	16,171	18,041	+1,870	+11.6%

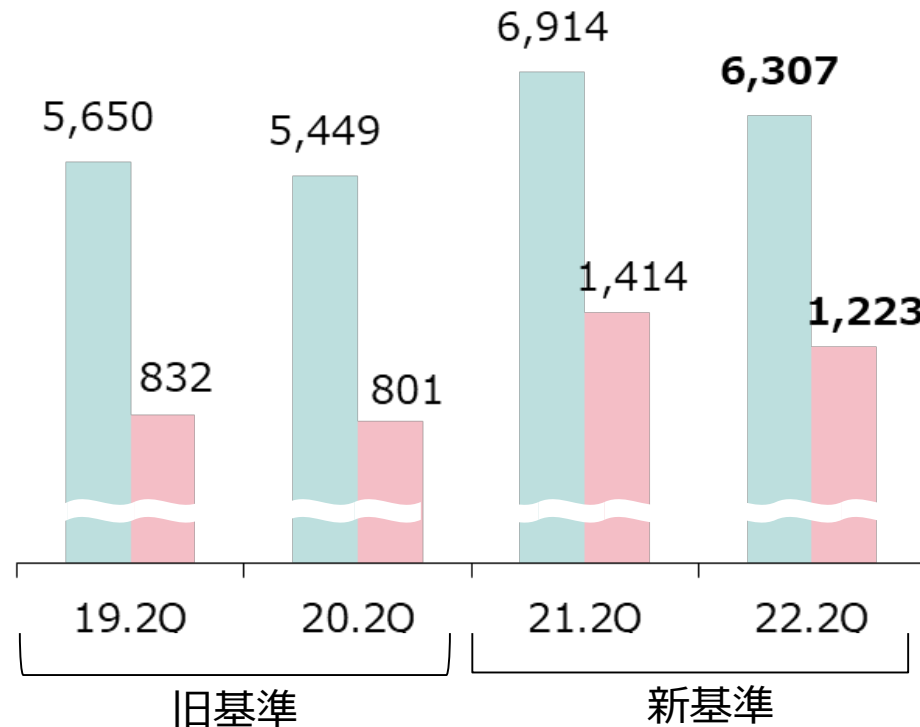
前期比概要

※為替影響 +1,183百万円

1. 繊維化学品分野／欧米向けアパレル加工分野堅調
2. 撥水剤、先端材料向け堅調
3. 中国／ロックダウンの影響を受けたものの新規獲得等で販売拡大
4. 各国／対アジア通貨円安による増収、増益
5. 半導体ウエハ加工薬剤／半導体加工市況好調で海外向けも伸長し販売拡大

コロナ禍の影響を受ける中、国内外ともに美容室向けは堅調に推移したものの、前年同期にODM事業大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があった事で減収減益となった

業績推移 単位：百万円



地域別売上高	新基準	新基準	増減額	増減率
	21.2Q	22.2Q		
日本	6,125	5,435	△690	△11.3%
海外	788	871	+83	+10.6%
合計	6,914	6,307	△607	△8.8%

※為替影響 +30百万円

前期比概要

1. 日華化学/コロナで美容室来店客数減の影響を受けたものの主力ヘアケアブランドの拡販等により堅調
2. 山田製薬/前年同期に大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があった事や、アルコール消毒剤向け減少により減収減益
3. デミコリア/コロナ感染拡大があり美容室来店客数は減少したものの主力ヘアケアブランド拡販等により増収増益
4. 全体的に原料・資材高騰の影響を受けたもののコストダウン等でカバー

営業CFはEBITDAの獲得25億円の一方、運転資金の変動22億円、法人税等の支払7億円などにより△1億円

投資CFは固定資産の取得による支出、定期預金の払戻しにより△1億円

財務CFは借入金の返済、配当金の支払により△4億円

単位：百万円

連結CF	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	増減額
営業CF	2,061	-126	△2,188
投資CF	-25	-110	△85
財務CF	-3,066	-465	+2,601

指標	2021年度	2022年度 第2四半期	増減額
期末現預金残高	7,659	6,986	△673
有利子負債	11,700	11,590	△109

【連結CF】 2022年第2四半期 主な要因

● 営業CF -126	当期	(増減額)
・EBITDA	+2,567	(△50)
・運転資金の変動	-2,205	(△2,117)
・法人税等の支払額	-697	(△226)
・補助金収入	+124	(+124)
・その他	+85	(+81)
● 投資CF -110		
・有形固定資産 取得	-814	(△253)
・定期預金増減 (△増加)	+628	(+862)
・有形固定資産 売却	+53	(△746)
● 財務CF -465		
・借入金の返済	-120	(+2,657)
・配当金の支払	-346	(△53)

ROAは、総資産の増加により若干低下

ROEは、前年の固定資産売却の影響により低下

自己資本比率は、当期利益及び為替の影響により向上

金額単位：百万円

指 標	2021年度 第 2 四半期	2022年度 第 2 四半期	増減率・額
ROA(営業利益)	5.2%	5.0%	△0.2ポイント
ROE(当期純利益)	14.2%	8.0%	△6.2ポイント
EBITDA	2,617	2,567	△50
(減価償却費)	1,241	1,180	△61
指 標	2021年度	2022年度 第 2 四半期	増減率
自己資本比率	45.9%	48.7%	+2.8ポイント

売上高 (+7.2%、化学品+11.6%、化粧品△8.8%)

- ・コロナ禍の影響は受けたものの、注力事業を柱に総じて堅調に推移した
- ・化学品／半導体ウエハ加工薬剤、先端材料向けなど、注力分野のEHD関連製品を中心に販売が拡大し、急激な円安の進行と合わせて増収となった
- ・化粧品／山田製薬ODM事業で、前年同期に大口受託案件のブランドリニューアルによる一時的増産があった事等により減収となった

営業利益 (+0.8%、化学品+8.2%、化粧品△13.5%)

- ・化学品事業は原材料高騰の影響を大きく受けたものの、販売拡大や価格改定などによりカバーした
- ・急激な円安進行により主に化学品で利益が膨らんだ
- ・化粧品は原料・資材高騰の影響を受ける中コストダウン等でカバーしたものの、売上減により減益となった

親会社株主に帰属する当期純利益 (△33.1%)

- ・特別利益が4.5億円減となった

増収 営業利益／横ばい
経常利益／増益
親会社株主に帰属する当期純利益／減益

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2021年度第2四半期（新基準）における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値として、増減率を表しております。

2. 上期トピックス

NICCA INDIA PRIVATE LIMITED (NID) 本格始動 (4月)

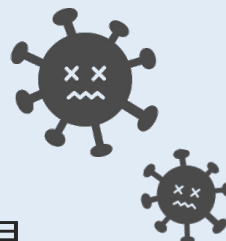
- 法人名 NICCA INDIA PRIVATE LIMITED
- 住 所 インド共和国マハーラーシュトラ州都 ムンバイ
- 資本金 72百万ルピー (約1億2千3百万円)
- 設 立 2020年9月
- 代表者 社長 : Mr.Amol Yeola 副社長 : 池端和彦
- 従業員 5名
- 主な販売品 繊維加工用界面活性剤 (綿加工用、合成繊維加工用)



(株)ニトリと抗菌防臭・抗ウイルス加工ダイニングセット「アルナスDF」を共同開発（3月）

H
健康衛生

- 繊維事業分野で長年培ってきた**抗菌防臭加工技術**を応用
- 抗菌防臭・抗ウイルス加工剤「ニッカノンRB-40」を木製部分に塗布することで、**高い抗菌・抗ウイルス効果**を確認
- ニトリと当社の技術の融合で、通常塗装と変わらない、**無垢集成材の風合いを感じることのできる仕上がり**を実現



▶ 革新的な抗ウイルス加工処方の繊維素材以外分野への展開事例



■注意

※1 未加工品と比べ、細菌の増殖を10000分の1以下に抑制。※2 未加工品と比べ、ウイルスの数が100分の1以下に減少。

※抗菌防臭・抗ウイルス加工は、病気の治療や予防を目的とするものではありません。また、抗菌防臭・抗ウイルス性は全ての細菌やウイルスの働きを抑制するものではありません。

※抗菌防臭・抗ウイルス性は、使用環境や表面の状態（汚れ、摩耗）により低下することがあります。

ポリエステルアップサイクル技術『ネオクロマト加工』を エレファンテック社と共同開発（4月）

- 染色・プリントされたポリエステル布地から染料を簡単に取り除き、再度、染色・プリントによる意匠を付与することができる技術
- 大掛かりな設備は必要なく、水を使用せずに染料のみを数分間でほぼ完全に脱色
- 何度でも新たなプリントデザインが楽しめる



- ▶ ファッション・テキスタイルロスゼロ、サーキュラーエコノミーへの大きな貢献が期待できる
- ▶ 今後アパレルブランド様とのコミュニケーションからこの技術の可能性を検証していく

アミノ酸由来人工核酸モノマーの工業生産プロセスを確立、 核酸医薬等の試験研究用途向けに製造・販売を開始（6月）

- 名古屋大学大学院 浅沼教授、北海道システム・サイエンス(株)との **共同研究**
- 核酸医薬で困難とされてきた「**安定性**」と「**安全性**」を両立
- 当社では従来の方法から **合成効率を大幅に高めた工業生産プロセスを確立、世界で初めて販売開始**



- ▶ 癌などの疾患に対する革新的医薬としての発展が期待される
- ▶ 更に新たな製品ラインナップ拡充と応用製品の事業化に向けた取組みを通じ、個別化医療^{*1}に貢献

*1 同じ病気の患者に対し、一律に同じ治療を行うのではなく、患者の体質や病気に関連する遺伝子を調べた結果から、一人一人に合った治療を選ぶことを特徴とする医療

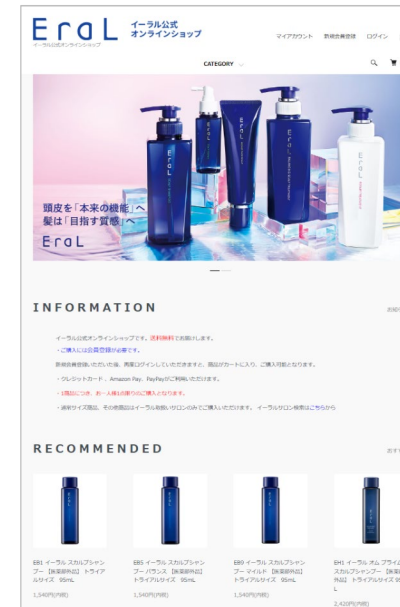
「イーラル」公式オンラインショップをオープン 「イーラル プルミエ」トランスペアレンシー (透明性) サイトを公開 (6月)

E
環境

H
健康衛生

- **ブランド初の公式オンラインショップ**で商品の販売を開始
- トライアル品のみ取り扱い、1人あたりの購入可能数量を限定
- ▶ お客様にサロンへ足を運んでいただくきっかけづくり

- 原料のトレーサビリティの把握、サステナビリティの取組み、製造工程や品質へのこだわり等のクオリティ情報について、**透明性をもって公開**
- 「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成に寄与
- ▶ 「イーラル」「イーラルオムプライム」についても順次公開予定



公式オンラインショップイメージ












EraL PREMIER

3. 2022年度 通期業績・配当予想他

事業分野によって差異はあるものの、総じてウィズコロナで21年比並みの経済活動ベースとなり、前年同期比で自動車関連分野、半導体分野は伸長する見込みも、欧米の金利高騰等で景気減速懸念あり

■ 事業分野外部環境／2022年下期想定

繊維加工	日本		コスト上昇によるアパレル製品の値上で消費動向にマイナス影響が見込まれる 衛生材料・産業資材分野は堅調が続く見通し
	海外		在庫過多、インフレによる消費マインド低下で2Q後半より欧米向け加工が大幅に減速 回復は4Q以降の見込
自動車	日本・海外		中国ロックダウンや半導体不足の影響縮小で日系メーカーは増産となり4Qでフル生産の見通し グローバル販売台数は下期で4,572万台（前同比+16.2%、+638万台）見込
製紙	日本		新聞用紙・印刷情報用紙は需要減継続、家庭紙・衛生紙は横ばい、板紙はEC需要もあり堅調継続 資材高騰の影響はなお不透明も価格転嫁は必至
クリーニング	日本		ホームクリーニング業界は回復の鈍さが続く コロナの影響が多少残るが、宿泊・飲食は観光振興政策等で更なる回復が期待される
半導体ウェハ	日本		5Gやデータセンター向けサーバ需要が底堅いこともあり、半導体需要も継続伸長見込
生活・環境 衛生関連	日本		抗菌・抗ウイルス剤／需要、用途の拡大スピードは鈍化も一定の市場が拡大 医療用洗浄剤／病院外来・入院患者数は前年同期比で大きな変化なし
化粧品	日本		上期同様の状況が続くと見込むが、コロナ第7波の影響を受ける可能性あり
	海外		韓国／物価上昇、ウォン安で消費行動抑制の動きが予測され客数減少・客単価低下が懸念される
数値指標	為替	—	通期期中平均 円/米ドル・125円の前提
	国産ナフサ	—	3Q予想/81,000円(前年同期比+51%)

2022年2月10日発表の業績・配当予想から売上高、利益共に上方修正。増収減益から増収増益（営業利益、経常利益）に転じ、中期経営計画の2023年計画である売上高500億円、営業利益25億円を前倒し達成見込

	2021年度 実績 (新基準)	2月10日時点	7月28日時点	単位：百万円	
		2022年度 直近予想 (新基準)	2022年度 修正予想 (新基準)	前期比	
				増減額	増減率
売上高	46,588	48,500	51,500	+4,911	+10.5%
営業利益 (営業利益率)	2,377 5.1%	2,100 4.3%	2,500 4.9%	+122	+5.2%
経常利益	2,706	2,300	3,000	+293	+10.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,595	1,200	1,800	△795	△30.7%
年間配当（円）	22	22	22	—	—

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を当連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度実績（新基準）における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

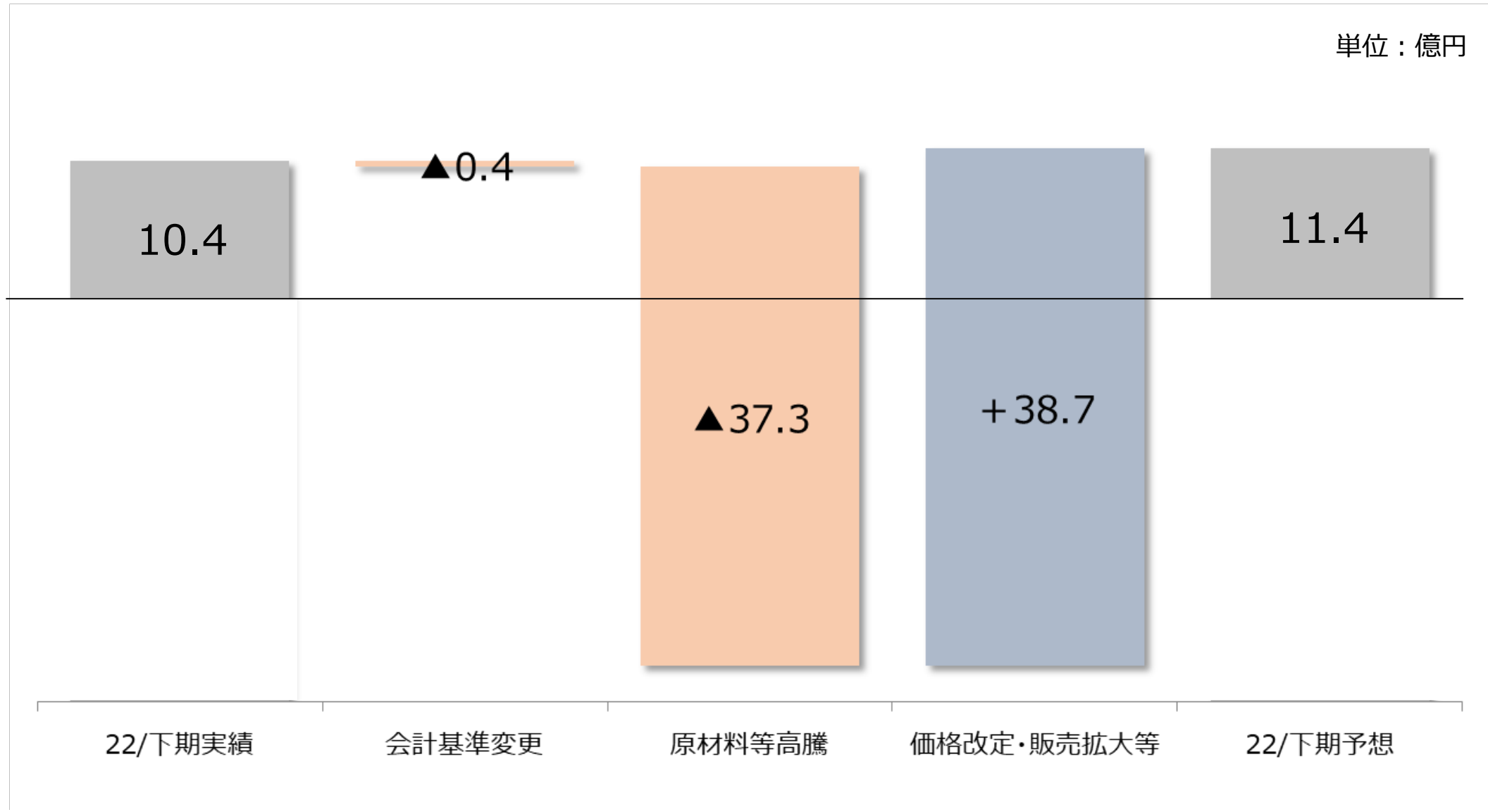
化学品セグメントの売上高とセグメント利益を上方修正した

単位：百万円

セグメント	2021年度 実績 (新基準)		2月10日時点 2022年度 直近予想 (新基準)		7月28日時点 2022年度 修正予想 (新基準)		前期比		前期比	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高	増減率	セグメント利益	増減率
	化学品	32,651	1,444	34,200	1,200	37,200	1,600	+4,548	+13.9%	+155
化粧品	13,324	2,734	13,500	2,550	13,500	2,550	+175	+1.3%	△184	△6.7%
その他	612	72	800	50	800	50	+187	+30.6%	△22	△31.0%
消去等	-	-1,874	-	-1,700	-	-1,700	-	-	+174	-
合計	46,588	2,377	48,500	2,100	51,500	2,500	+4,911	+6.2%	+122	+5.2%

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を当連結会計期間の期首から適用しており、上記の2021年度実績（新基準）における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

2022年度下期 営業利益増減要因 (対前年/概算)



4. 参考情報

単位：百万円

項目	2013/2Q※	2014/2Q	2015/2Q	2016/2Q	2017/2Q	2018/2Q	2019/2Q	2020/2Q	2021/2Q	2022/2Q
売上高	22,963	19,542	21,999	20,966	23,414	24,752	23,649	19,753	23,237	24,917
EBITDA のれん償却額反映	2,974	2,576	2,424	1,722	1,999	2,180	1,703	1,678	2,617	2,566
(EBITDA率)	13.0%	13.2%	11.0%	8.2%	8.5%	8.8%	7.2%	8.5%	11.3%	10.3%
減価償却費 のれん償却額含む	1,103	880	935	840	923	967	933	1,339	1,241	1,180
営業利益	1,871	1,696	1,489	882	1,076	1,213	770	339	1,376	1,386
(営業利益率)	8.1%	8.7%	6.8%	4.2%	4.6%	4.9%	3.3%	1.7%	5.9%	5.6%
経常利益	2,062	1,688	1,632	831	1,099	1,266	681	470	1,596	1,823
親会社株式に帰属する四半期純利益	1,737	1,129	993	402	571	1,829	329	190	1,583	1,058
1株当り四半期純利益(円)	98.74	64.21	58.27	25.64	36.45	116.58	20.95	12.14	100.59	67.14
配当金(円)	6	8	8	10	8	8	8	4	8	11
自己資本比率	39.2%	42.7%	39.3%	35.7%	34.7%	35.7%	37.0%	37.6%	44.7%	48.7%
ROE	25.8%	13.6%	10.5%	4.7%	6.7%	18.9%	3.3%	1.8%	14.2%	8.0%
ROA	10.0%	8.4%	6.7%	3.8%	4.3%	4.4%	2.8%	1.3%	5.2%	5.0%
研究開発費	1,130	984	1,010	1,061	986	1,085	1,022	982	1,062	-
従業員数(人)	1,186	1,227	1,359	1,444	1,455	1,490	1,514	1,503	1,472	1,469

※ 単体は4-9月

※ は「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等適用によりそれ以前とは基準が異なる項目

商号 : 日華化学株式会社 (証券コード 4463)

本社 : 福井県福井市文京4丁目23-1

創立 : 1941 (昭和16) 年9月15日

資本金 : 28億9,854万円

発行済株式数 : 1,771万株

決算期 : 12月31日

従業員数 : 連結 / 1,469名 単体 / 603名 (2022年6月30日現在)

事業内容 : 繊維を主とする各種産業用界面活性剤および化学品、化粧品等の製造・販売

上場証券取引所 : 東証プライム市場、名証プレミアム市場

Activate Your Life



この資料には、2022年7月28日現在の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

<お問合せ先>

日華化学株式会社 経営企画本部 IR担当

TEL:(0776)25-8584 (直通) FAX:(0776)25-4798

E-mail : matsushima@niccachemical.com